

⑤ 山田篤美 著

『真珠の世界史：富と野望の五千年』

(中央公論新社)

古来、特権階級は富の象徴として輝かしい宝石を身につけました。ダイヤモンドなど文字通りの「石」は、カットや研磨を繰り返してはじめて光ります。その一方で、海底から採った貝の中から突如現れる、自ら強く光り輝く奇跡の丸い玉。それが真珠です。自然が生み出したその美しさにどれほど多くの人々が魅了され、畏敬の念を抱いたのでしょうか。

本書では真珠の歴史から養殖のグローバル化、真珠が育つ海の問題なども取り上げられています。(N.T.)

668.8 || Yam

⑦ ケネス・スラウェンスキー 著、田中啓史 訳

『サリンジャー：生涯91年の真実』

(晶文社)

小説『ライ麦畑でつかまえて』で知られている、作家J.D.サリンジャーは、1965年に最後の作品を発表して以降、45年にわたり沈黙を守りつづけ、2010年に91歳の生涯を閉じました。

本書は、サリンジャーの誕生から死までの全人生をカバーした初の伝記です。出生秘話、家族、戦争体験、失恋、結婚、創作活動、編集者との確執、謎に包まれた私生活について明らかにしています。彼の作品は斬新な文体で、ウィットと翳りがあります。本書を読んだ後に作品を読めば、より一層理解ができるのではないのでしょうか。(M.T.)

930.28 || Sla



⑥ 鳩居堂 監修

『鳩居堂の日本のしきたり豆知識』

(マガジンハウス)

京都寺町、創業350年の老舗「鳩居堂」監修の一冊です。季節の歳事、人生の節目のお祝い事、贈答のマナー、手紙の楽しみ方など、日本のしきたりを分かりやすく解説しています。「初夢」「七夕」「七五三」など身近な事柄から、「重陽の節句」「左義長」「熨斗鮑」など少しなじみのないようなものまで、マナーとして、教養として知っておきたい事柄ばかりです。

毎年何となく食べていた「鏡餅」も本来の意味を知ればひと味違ったものになるのではないのでしょうか。(S.M.)

386.1 || Kyuk

⑧ アーブレイユス 著、呉茂一、国原吉之助 訳

『黄金の驢馬』

(岩波書店)

この作品は唯一完全な形で残ったローマ時代のラテン語小説である。古代ラテン語小説など敬遠してしまいがちだが、他の古典作品と違い予備知識なしでも楽しめる作品であるし、内容も口バに変身してしまった男が浮世の辛酸を嘗め尽くす滑稽なものである。全体にエロ・グロ・ナンセンスな風刺・怪異譚が散りばめられた娯楽小説だが、作中挿話の白眉である『クビードーとプシューケーの物語』は人間の魂が試練によって聖化される過程を美しく描き上げたものとして有名である。(S.O.)

992.3 || Apu